

☆公民館運営審議委員付帯意見

(A：適切で成果あり B：成果はあるが、改善の余地あり C：要改善)

委員①		佐倉の魅力を市民に理解してもらうという点で意義深く、市民以外への波及効果も視野に入れられるくらいの成果があるのではないかと感じる。
総合評価	A	

委員②		地域に関する興味・関心を高めさせる術として、散策や自然観察を取り入れていただいたのは良かったと考えます。一方で、内容的に仕方ないのかもしれませんが、成人対象に限定されてしまっているのは残念であるとも思いました。また、散策が天候に左右されることに加えて、10月も夏日になることが増えているので、日時の設定が難しいとも感じました。
総合評価	A	

委員③		野草の魅力を伝えるフィールドワークは、素晴らしいが専門的で気軽さに欠けるかもしれない。古刹を知る良い機会でもある。
総合評価	B	

委員④		広報はされているが、参加者は多くなることはあまり期待できないように思われる。新緑の季節にやってみたらどうでしょうか？
総合評価	B	

委員⑤		ルートや内容に変化が無いとリピーター的な参加は難しいかと。何かイベント的な催しがあると参加者も楽しめるかと。
総合評価	B	

委員⑥		豊かな自然を保つ当地区の特性を生かした本事業は自然を大切に、教養の向上と健康の向上を考慮しながら実施する本事業は継続していただきたいと願います。課題であったトイレについては、一歩進んだようで、安心して参加できることをアピールしてよいと考えます。
総合評価	A	

委員⑦		先ず名称ですが、以前の「ふるさと弥富散策会」や「弥富野草散策観察会」、また「弥富自然散策観察会」でも受け止める側には大きな変わりはありません。弥富の今昔を余すところなく堪能するのが趣旨なので、史跡も含んで欲しいと思います。リピーターの参加に配慮し、実施時期を様々な植物の見頃に合わせたらいかがでしょう。そして、「〇〇〇を愛でよう」のような季節ごとのとっておきの副題を添えたいかが。もう一つはコースの途中で必ず目にする、弥富特有の地形を紹介して欲しいと思います。私のこだわりですが、それは弥富川を含む鹿島川流域にみられる特徴的な千葉段丘の様子のことです。弥富小も公民館も、町方が広がる台地より低く、千葉第2段丘と呼ばれる弥富川の高さとの中間に建っています。そもそも市内の台地標高が30m前後の中にあって、宮内や飯塚は40mを超える市内で最も高い地形に位置します。ここに展開した古墳時代以降の遺跡の存在は興味を引きます。募集案内に弥富自慢の一つとして加えてみるのはいかがでしょうか。
総合評価	B	

委員⑧		弥富ならではの自然と歴史を散策を通して知っていただくことは、とても大切ですし、公民館が推進する活動の一つと言えると思います。参加者が弥富地区以外の方ようですが、実は在住の方々も知っておきたいことだと思います。むしろ、生活の中で無形文化となっているような行事については、こうした散策と一緒に加わってもらい、話しながら深めることもできるかと思います。トイレ休憩など、この地域の施設は事前確認が必須です。
総合評価	A	

委員⑨		
総合評価	C	

委員⑩		毎年募集人員に対して8~9割の参加者があり、人気が高まります。今回は雨天の為残念でした。弥富の大切な自然保護に向け事業継続を希望します。
総合評価	A	

委員⑪		公民館事業として、20年近く、本活動されており地域愛を育む活動として、継続して下さい。地区には、今回の皇産霊神社等、「古事記」に記載されている大神を祀る神社があります。散歩と共に座学として「古事記」の講座を計画されてはと思います。地域愛がより深まるのでは。
総合評価	A	

委員⑫		今回の天候による順延と途中中止は致し方の無きこと。敢えて言えば散策コースにトイレの場所を設けることと同様に、屋根のある避難場所の確認も考えて欲しい。また、同様講座では定員が少ないことを残念に考える向きもあるが、これは移動しつつの事業であり、また安全面からも仕方の無い事である。ただ、今回講師以上に植物に詳しいマニアグループの参加があり、集団が分断状態となった事は残念であった。この二点の対策として多講師制を提案したい。それは折角「弥富自然散策観察」としているのだから、野草観察だけでなく、野鳥観察や郷土史案内も実施する欲張りな講座である。その場合、講師は複数人必要となるが、参加者も多く出来るし、マニアによる乗っ取りも阻止出来る。ご参照頂きたい。
総合評価	A	

委員⑬		交通の便が悪く、参加者が車で来館される市民に限られてしまうのが残念です。時間も限られており、訪ねる場所が限定されてしまいます。弁当持参で10時~14時なら岩富にも行かれますね。
総合評価	A	

委員⑭		<p>検討ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加人数:6人という参加人数は事業の規模に対して十分だったか。より多くの参加者を集めるためには、広報方法や内容の見直しが必要かもしれない。 天候対策:雨天時の代替案や天候に左右されない屋外プログラムの検討も必要ではないか。 コースのマナー対策:講師や地元住民からの情報提供により、新たな散策ルートの開始など、コースの多様性を確保する工夫も必要。
総合評価	B	

委員⑮		野草の会はどの地区にもありますが、自然観察と広げたこと、素晴らしいと思います。
総合評価	A	